第36回

庄内浜の砂防植林展

1階／城輪柵跡展

■開催期間／1986年1月30日～3月30日

酒田市立資料館

酒田市一番町8－16　TEL (0234) 24－6544

砂防植林の先覚者

来生彦左衛門

諸木の種子を新潟県村上から持ち帰って苗木の養成するなど、造林についての造詣が深かったが、1707年（宝永４）はじめて遊佐郷植付役となって造林の経営に当った。その孫宇兵衛もまた熱心努力の人で海岸砂防意見書を上申し、西浜山植付の卓抜な意見を述べた。

宝永から寛政まで85年の間に、父子孫三代にわたる植付区域は、北は吹浦から南最上川口におよび、木数はクロマツ（アキグミ）その他（雑木など）諸木あわせて、510,000本に達したという。

庄内の海岸砂防史に出て来る最初の人はこの彦左衛門である。

佐藤太郎右衛門

茨新田の開発者治郎右衛門の子善五郎は、黒森の南に広田新田を拓き、その次男太郎右衛門は広田新田に移住して肝煎役となり、1707年（宝永４）藩命で御林守となって砂山の植付に当った。

その子が初代太郎右衛門である。彼は父の業を継いで植林に努力、早くから黒森川の砂埋れを憂えて村民に呼びかけては植林をし、1732年（享保17）には黒森下から 2,000m にクリ・ナラ・スギなどを植え、黒森川に堀割を仕上げた。

その後も努力を傾けて諸種のスギ種子を取寄せ育苗し植付すること10数年、1745年（延享２）には京田通植付役となった。

さらに1764年（宝暦14）には坂野辺新田を開発して移住し、京田組はもちろん西郷組、加茂組まで植林すること50有余年、南道地から北宮野浦に至る広漠たる砂山に８割の造林を完了した。

実に川南の唯一にして最大の造林指導者であった、晩年は10人扶持苗字帯刀の恩命を受けた。その後、子孫六代相継いで植付役として父祖の意を体し、砂防林の造成に、あるいは田畑の開発に郷党の先覚者、指導者として粉骨砕心して明治に至っている。

川南海岸４里の造林は、藩の援助はあったにせよ、殆んど太郎右衛門一家の力により成し遂げられたことは、誠に驚嘆の極みといえよう。

佐　藤　藤　蔵

1718年（享保３）～1797年（寛政９）酒田中町に生れる。亀ケ崎城代志田修理の裔という。当時庄内砂丘は不毛の砂山で強風の時は飛砂で田畑は埋まり、そのため遊佐郷民は大いに悩んだ。1745年（延享２）藤蔵は父藤左衛門とともに私財を投じて砂丘に植林することを願い出て翌年、遊佐郷藤崎に家屋を建て植林に着手、柳・ウツギ・ネム・籐・松などの苗を育て、他に多くの木苗を求めて植樹。

1755年（宝暦５）藤崎に移住、57年におよぶ困苦の末に一大美林を完成す。昭和３年従五位を追贈された。

佐藤四郎兵衛

1741年～1747年（寛保、延享）のころ、飽海郡西浜山の飛砂の害は特に甚しかったが、郡代服部外右衛はこれを憂え、農民を土着させて砂防植付の外、途はないものと思い種々画策して現在の藤崎の西山に砂除簀垣を設置し、佐藤四郎兵衛（平田村北俣）、同安右衛門（平田村飛鳥）、同藤左衛門（酒田）らの希望者を募って西浜植林を始め藤崎村を創った。

四郎兵衛は、その肝煎となり植付の先導者となって完璧な藤崎砂防林をつくった。

尾 形 庄 蔵

平田郷大町村の大庄屋であった尾形庄蔵は郷党の民政に力を致していたが、1751年（宝暦元）始めて浜畑の地砂防植林を願出、職を弟に譲って住いを浜田に移した。

宝暦８年のころから植付は次第にはかどり約30年後の寛政年代まで、浜田一帯から吹浦街道に沿い荒瀬郷境にわたってクロマツ 173,800本の植付を完成した。

現在大町山と俗称する字松境に残存する国有林の一部分に彼の偉業をしのぶことができる。

宮田角右衛門

大町組大庄屋、尾形庄蔵の配下で肝煎役をつとめた。庄蔵の信頼あつく、1792年（寛政４）から1822年（文政５）までの30年間、北千日町の通称コレラ山付近一帯の植林を行ない、その本数 300,870本という。

本 間 光 丘

1732年（享保17）～1801年（享和元）本間家二代光寿の三男、幼名久治、友治郎、のちに久四郎と改め、1771年（明治８）ころ藩の士分になってから四郎三郎光丘と称した。

19歳から22歳まで播州姫路の豪商奈良屋権兵衛（馬場了可）について、商売と学問を身につけて帰り、三代を継いで家業をあげ、本間家中興と祖といわれる。

当時、酒田地方は季節風の風砂の害に悩まされていたのを救済するため、1758年（宝暦８）光丘27歳のとき西浜砂防林の植林を始め、私費を投じ４年目でようやく成功をみた。以来本間家はこれを継続事業として植林をつづけ、今日の砂防林の礎を築いた。1816年（文化13）町の有志が日枝神社境内の高台に松林碑を建てて偉業を伝えている。

1918年（大正７）正五位を贈られ、1924年（大正13）には光丘神社として祀られている。

堀　　善　蔵

？～1792年（寛政４）藤塚村堀家五世である。初世堀　大膳は通称善三郎、観音寺城主来生氏の臣で藤塚村を開創した。

二世・三世・四世ともに善三郎を襲名した。五世善蔵。名は豊年、通称は初め勇七のち善蔵と改めた。

1775年（安永４）新田目組大庄屋となり、1777年（安永６）組内21か村を動員し西山砂丘南北 2,200間（4,000m）の他にクロマツの植林をはじめ、子の六世堀 豊次（善蔵）の代にいたって完成した。

曽根原 六 蔵

1743年（寛保３）～1810年（文化７）本名保業、子徳と称した。酒田中町で酒造業を営み碇屋と称した。

庄内砂丘北部の植林を志し、1780年（安永９）居宅を菅野（遊佐）に移し植林を開始 1,909,000本余、 214町余の植林を完成した。

1800年（寛政12）～1846年（弘化３）までの間、その功を賞して庄内藩から毎年米30俵、銭50貫文を支給され、名字帯刀五人扶持を与えられて大庄屋格となった。

阿部清右衛門

吹浦港の功労者で、さきの吹浦が流砂の変転極まりなく川口もまた浅かったため、船舶の出入が困難であったので独力築港事業を始め、砂防林の経営を企てた。

1823年（文政６）着手して1831年（天保２）に港を、さらに10年を経て植林は完成した。現在西浜国有林の老令林で、俗に清右衛門爺山という。

富樫兼治郎

1896年（明治29）鶴岡生れ。荘内中学、東大農学部卒業、直ちに農林省に入る。秋田県早口・能代など各営林署長・秋田営林局経営部長・酒田営林署長を歴任。

若くして郷里に近い浜中海岸の飛砂を見て砂防植林に志す。その研究の成果である「日本海北部沿岸地方における砂防造林」は斯界の権威書となっている。

1965年（昭和40）71歳で死亡。日本林学会賞・河北文化賞・正五位勲五等に叙し瑞宝章受賞。

〈参考資料：庄内砂丘砂防林史・酒田営林署海岸治山事業概要・山形県大百科事典〉

●開館時間／９時30分～16時30分　●休館日／月曜日・祝日
●入館料／大人100円・児童生徒50円